

入試体験会
12月23日



2016年度

宝仙学園中学校共学部 理数インター
公立一貫入試対応入試問題

適性検査Ⅰ

12月23日実施／入試体験会

【注意事項】

1. 試験時間は45分です。
2. 問題は1ページから4ページまであります。
3. 解答はすべて、解答用紙に「たて書き」で記入してください。
4. 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
5. 設問に字数制限がある場合には、句読点も字数に数えます。

深呼吸してみよう！落ち着いて力を出し切ってください。



宝仙学園中学校共学部 理数インター

一 次の文章1・文章2を読み、後の問いに答えなさい。

文章1

まず質問。あなたは一日何時間テレビを観るだろう。

2005年度にフランスで発表された統計によると、日本人が一日にテレビを観る時間は5時間1分で、世界で最もテレビを見る時間が長いらしい。世界の平均は3時間とちょっと。ちなみにこのときの二位はアメリカで4時間46分だ。

まあこれはもう10年近く前のデータだ。今はもう少し短くなっていると思う。NHK放送文化研究所や広告代理店などの最近の調査では、平均で3時間から4時間くらいのおいだのようだ。

ただしこれは平均だから、観る人はもっと観る。どちらかといえば年配層に多いようだが、起きている時間のうち半分以上は、テレビを観ているという人も少なくない。

仮にテレビを観る時間が3時間半だとしても、起きている時間のほぼ4分の1だ。これは長い。一日に新聞を3時間半読む人はそういない。本だって毎日3時間半読むのは大変だ。

ただしこの3時間半には、誰も見ていないけれど、ただ何となく画面がついているという時間も入っている。テレビはこの、「ただ何となく」ができるメディアだ。家族や友人たちとおしゃべりをしたり、何かを食べたりしながら見ることが出来る。新聞や雑誌はそうはいかない(忙しいお父さんは、朝食をとりながら新聞を読むかもしれないけれど)。

時間だけじゃない。テレビを観る人の数はとても多い。例えば視聴率1%は、関東地区において16万7600世帯が見たという計算になる。これは個人視聴率では、39万7940人を意味する。視聴率20%は、日本全体で2400万人の人が見たという計算になる。

2400万人。もの凄い数だ。メディアは他にたくさんあるけれど、少なくともマーケット(市場)に関するかぎり、テレビの規模は圧倒的に他のメディアを引き離している。まったく別のメディアと言いついていてもいいくらいだ。

たとえば本の場合、もしも100万部売れたら大ベストセラーだ。でもこれもテレビの20%の24分の1。しかも100万部を達成する本は年に一回出るか出ないくらいだけど、テレビはほぼ毎日だ。新聞と比べれば、世界一の発行部数といわれる読売新聞でも、部数は

1000万部だから、2400万人の半分以下だ。

とにかく規模としてテレビは桁外れ。しかも「ただ何となく」見ることが出来るメディアなのに、影響力はとても強い。

たとえばグルメ番組。何となく観ているうちに、番組で紹介されたラーメンとか回転寿司とかを猛然と食べたくなったという体験は、きっとあなたにもあるはずだ。テレビで紹介されたことで、漬れかけていたラーメン屋さんとかが急に大繁盛したという話もよく耳にする。実際にテレビの宣伝効果は大きい。もちろん新聞や本にもそんな作用はあるけれど、少なくともテレビの比ではない。特に食欲など生理的な感覚は、映像メディアによって大きな刺激を受ける。活字で「美味しい」とか「舌にとろける」とか「まったく」などといくら書いても、アツアツのラーメンそのものをタレントが食べる映像にはかなわない。

それだけじゃない。テレビは見る側と画面の中に映っている人や場所との距離を縮める。僕の知り合いの大学の先生は、街でよく知らない人から、「何やってるのよ、こんなところで?」といきなり話しかけられることがよくあると笑っていた。話しかけてきた人はテレビで彼を何度も見ているから、まるで昔からの知り合いのような気分になっているらしい。

テレビの正式名称はテレビジョン。tele(遠く)とvision(見る)の合成語だ。遠くのものを見ることが出来る。それは確かに便利だ。でも遠くばかりを見ているうちに、距離感がわからなくなる。遠くなのにすぐ近くのように錯覚してしまう。だから他人も何となく知人のような感覚になる。それがテレビ。

要するにいつも望遠鏡を目に当てているようなものだ。確かに遠くの景色はよく見えるけれど、あまり夢中になると足もとの小石につまづいてしまう。これがテレビ。とても便利だけど、でも影響力があまりに強いから、副作用もたくさんある。

若い世代のテレビ離れは進んでいるとよく聞けれど、それを引いてもテレビはやっぱりまだまだ圧倒的な影響力を持つメディアだ。

(森達也)「たったひとつの『真実』なんてない」より 一部改訂

文章2

テレビの短所において忘れてはならないのは、テレビによる情報操作の危険性の存在です。ちょっと難しいお話ですが、テレビをうまく利用して、テレビと上手に付き合っていくためにぜひとも覚えておいて欲しいお話ですので、じっくり説明しましょう。

テレビはこれまでもお話ししたように視聴者に対して非常に影響力の強いメディアです。文字や静止画(つまり写真)だけで情報を伝える

活字メディアや、同じ放送メディアでも音声だけに頼っているラジオとは段違いの情報量を瞬時に送ることができます。またそれは動く映像と音声、ときにはBGM（バックグラウンドミュージック、つまり後ろで流れている音楽のことです）、さらにテロップ、ナレーションなどあらゆる演出を駆使して視聴者に働きかけ呼びかけます。単なるニュースをまるでドラマやマンガの一場面のように伝えることすら可能です。したがって単位時間、つまり一定の同じ時間当たりの情報量としては、テレビは他のメディアとは比べ物にならない情報を伝えることができ、また視聴者はそれを受け取ることができます。

たとえばあるニュースについて新聞で知ろうと思えば、読む時間を考えるとそこその時間が必要でしょうが、テレビではそれを数秒でなしてしまうことができるわけです。さらにテレビは気軽に触れられます。新聞はわざわざ読まなくてはなりません。テレビではスイッチさえ入れれば、勝手に情報を伝えてくれます。中には先ほどお話ししたBGMのような感覚で、他のことをしながらテレビをつけっぱなしにしているような人さえいます。このように親しみやすく馴染みやすく、圧倒的な情報量を伝えてくれるテレビですが、それだけにまたその影響力も無視できないものがあるのです。

テレビではやろうと思えば情報操作ができます。情報操作というのは簡単にいうと国民や他の人たちに、ある情報だけを伝えなかったり、逆に特定の情報だけを伝えたり、あるいは嘘ではないけれど紛らわしい伝え方をしたり、そんな風に様々なあまりよろしくない工夫をして情報を送ることによって、国民やその他の人たちにあやまった情報の解釈をさせることです。

難しいと思いますので例を挙げましょう。情報操作の一番わかりやすい例は第二次世界大戦の頃の日本軍の戦果を伝えた報道です。大本営発表などともいいます。この頃の日本の軍部は国民が戦争に嫌気を持って戦争をやめたくなったりしないように、日本軍が負けた情報は流さず、勝った情報だけを流したりしていました。あるいは「全滅」を「玉砕」などと言い換えたり、「撤退」を「転進」などと別の言葉で表現することで、負けているというイメージを極力伝えないようにして、国民にはまるで日本軍が連戦連勝、すべてが思い通りに進んでいるかのように錯覚させました。これが典型的な情報操作です。（中略）

かつては新聞によってこれらがなされましたが、テレビを使うとより容易に情報操作をすることができます。なんせテレビは新聞に比べ多くの人が気軽に見えていますし、実際に動く画像があるので信頼度も高いと思われると思います。そして画面のバックで聞こえるか聞こえないか程度で流れている音楽や、ナレーションの声や口調により、視聴者も気がつかないうちにいつの間にか、決まったイメージを持たされてしまいます。事件の説明をする人の声の調子一つで、読み上げる人の、あるいは発言を代読する人（代わって読む人）の声質一つでいくらでも印象

を操作することは可能です。極端な話をすれば、「野球はサッカーよりおもしろい」とか「欧米人はアジア人より優れている」なんて特定の価値観すらも抱かせてしまうことができます。こういうことを、心をコントロールするという意味あいではマインドコントロールとか洗脳とかいうのですが、情報操作にとどまらず、このマインドコントロールや洗脳すらできてしまうのがテレビというメディアの持つ力です。

これはテレビの持つ短所としてかなり重要なものでしょう。ただし普通はテレビ局は情報操作にならないよう極力心がけて番組を作っていますし、テレビ局が情報操作をやっていないかを監視する機関も存在しています。ですからテレビを見ることを極端に恐れる必要はありません。ただテレビが伝えることをなんでも鵜呑みにしないよう心がけたり、テレビが伝えてくれたことやコメンテーター、司会者などの発言について、自分でも考えてみて、何でもかんでも賛同しないように気をつければよいでしょう。

（後藤武士「小中学生のための世界一わかりやすいメディアリテラシー」より 一部改訂）

問一 二つの文章の要点を比べて共通している点を、四十字以上、五十字以内でまとめなさい。

問二 「本」や「新聞」に対する「テレビ」の利点について、二つの文章の内容をふまえて、四十字以上、五十字以内でまとめなさい。

問三 二つの文章をふまえ、「テレビ」を利用するとき私たちが気をつけなければならないことを、二つの文章の中で挙げられていない具体例を挙げつつ、三五〇字以上、四〇〇字以内でまとめなさい。なお、次の「きまり」に従いなさい。

〔きまり〕

- ・ 題名は書きません。
- ・ 最初の行から書き始めます。
- ・ 「、」や「。」もそれぞれ字数に数えます。
- ・ 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- ・ 最後の段落の残りのます目は、字数として数えませんが。